

<b>Title</b>	都市政策・都市計画の新動向：人口減少・環境制約時代をむかえて（共同研究報告：都市経営研究）
<b>Author(s)</b>	中村, 準一
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-2 : 20-20
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2302">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2302</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

### 【都市経営研究】

## 都市政策・都市計画の新動向

—人口減少・環境制約時代をむかえて—

2009年6月17日、新都心ビジネス交流プラザF4 聖学院教室にて、第1回都市経営研究会が開催された。講師に三菱総合研究所主席研究員である川村雅人氏をお迎えし、上記テーマのもとこれからの都市計画、地域政策のあり方について概論



第1回都市経営研究会

的な報告をいただいた。以下に概要を記す。

今日、都市政策に関わる重要な社会問題の一つに人口減少と少子高齢が同時に進んでいるということが指摘される。わが国の人口は2006年をピークに減少に転じ、少子高齢化はこれから加速度的に進んでいく。世代構成のバランスが変わり負担と受益、扶養等の再考を迫られる（社会保障と国民負担）とともに社会経済にさまざまな制約が生じることになる。

とりわけ都市・地域の問題としては、土地需要の減少による低未利用地の増大と都市の縮退、それに伴う地域間・都市圏規模間での地域経済規模の格差増大、財政制約による建設投資の削減により国土基盤の維持が困難になることが指摘される。川村氏は、都市政策・都市計画の新動向とその社会的意味論について言及しながら、財政、雇用、医療、環境、所得、都市等多様な観点から人口減少化社会が抱える課題と戦略とを提示し、また将来世代に引き継ぐ豊かで活力のある持続可能な都市の可能態としての〈コンパクト・シティ〉、その概念と課題について、中心市街地活性化、低未利用地利用の先見事例を紹介しながら検討した。

発表後は、コンパクト・シティの概念規定、公益都市圏型のコンパクト・シティのあり方、都市づくりと国・行政との関係について活発な議論が交わされ盛会のうちに終了した。

（文責：中村準一 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科 博士後期課程）

（2009年6月17日、新都心ビジネス交流プラザ4階聖学院教室）